

コンクリート構造物の品質確保に関する特記仕様書

平成27年11月1日改正
横浜市港湾局

- 1 コンクリート構造物に使用するコンクリートの水セメント比は、つぎによることとする。
一般の環境条件(主として陸上構造物)の場合は、鉄筋コンクリートについては55%以下、無筋コンクリートについては60%以下とする。
港湾構造物(海水の影響を受ける構造物)については、別表によるものとする。
ただし、設計図書等で指定されている場合は、それによるものとする。
- 2 スペーサは、構造物の側面については原則1㎡につき2個以上、構造物の底面については原則1㎡につき4個以上設置すること。
- 3 重要なコンクリート構造物*1の適切な施工を確認するため、コンクリート構造物の施工完了後に、テストハンマーによる材齢28日強度の推定調査を実施し、調査結果(強度推定調査票)を監督員に提出すること。
調査頻度は、鉄筋コンクリート擁壁及びカルバート類は目地間、トンネル、ケーソン類は1打設区分(セントル毎)、その他の構造物については強度が同じブロックを1構造物の単位とし、各単位につき3カ所の調査を行うことを基本とする。
調査方法は、コンクリート標準示方書(JSCE-G504)による。
テストハンマーによる強度推定調査の結果が、所定の強度を得られない場合については、原位置のコアを採取し、圧縮強度試験を実施し、調査結果(強度推定調査票)を監督員に提出すること。
詳細は、独立行政法人土木研究所の技術資料(テストハンマーによる強度推定調査の6つのポイント)等を参考にすること。
- 4 重要なコンクリート構造物は、ひび割れ発生状況の調査を、別に定める要領*2により実施し、調査結果を監督員に提出すること。
- 5 重要なコンクリート構造物は、構造物の諸元、施工業者名、完成年月等を表示した銘板*3を設置すること。(銘板の視認性が確保できないような海中構造物などは除く)

*1 重要なコンクリート構造物とは、高さが5m以上の鉄筋コンクリート擁壁(ただしプレキャスト製品は除く)、内空断面積が2.5㎡以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上・下部工(ただしPCは除く)、トンネル、ケーソン及び高さが3m以上の堰、水門、樋門、閘門とする。

*2 「コンクリート構造物のひび割れ発生状況の調査実施要領」(道路局ホームページ)

*3 重要なコンクリート構造物に設置する銘板のイメージ図(道路局ホームページ)

別表

構造部材別のコンクリート配合条件表

種類	構造部材の種類例	配合条件	
		最大水セメント比(%)	粗骨材の最大寸法(mm)
		氷点下の気温となる ことがまれな地域	
無筋コン クリート	防波堤上部工、蓋コンクリート、 本体ブロック、異形ブロック (消波・被覆)、根固めブロック、 袋詰めコンクリート、 係船岸上部工、胸壁、 係船直柱基礎（重力式）	65	20、25、40
鉄筋コン クリート	係船柱基礎（杭式） 胸壁、係船岸上部工 ^{※1}	65	20、25、40
	栈橋上部工	—	—
	ケーソン、ウェル、 セルラーブロック、L型ブロック	50	20、25、40
	消波ブロック	55	20、25、40
	控壁、控杭上部工	60	20、25、40

※1) 栈橋上部工は除く。

テストハンマーによる強度推定調査票（１）

工事名			
請負人名			
構造物名	（工種・種別・細別等構造物が判断出来る名称）		
現場代理人名			
主任技術者名			
監理技術者名			
調査日	平成 年 月 日		
調査者名			
位置	測定No.		
構造物形式			
構造物寸法			
竣工年月日	平成 年 月 日		
材齢	<input type="checkbox"/> 28日～91日 <input type="checkbox"/> 左記以外（ ）日		
適用仕様書			
コンクリートの種類			
コンクリートの設計基準強度	N/mm ²	コンクリートの呼び強度	N/mm ²
海岸からの距離	海上、海岸沿い、海岸から_____km		
周辺環境①	工場、住宅・商業地、農地、山地、その他（_____）		
周辺環境②	普通地、雪寒地、その他（_____）		
直下周辺環境	河川・海、道路、その他（_____）		
<p>構造物位置図（1／5，000or1／2，500を標準とする）</p> <p>添付しない場合は （別添資料一〇参照）と記入し、資料提出</p>			

テストハンマーによる強度推定調査票（２）

構造物名（工種・種別・細別等構造物が判断出来る名称）

一般図、立面図等

添付しない場合は
（別添資料一〇参照）と記入し、
資料提出

テストハンマーによる強度推定調査票（3）

構造物名（工種・種別・細別等構造物が判断出来る名称）

全景写真

添付しない場合は
（別添資料一〇参照）と記入し、
資料提出

テストハンマーによる強度推定調査票（４）

構造物名（工種・種別・細別等構造物が判断出来る名称）

調査箇所	①	②	③	④	⑤
推定強度 (N/mm ²)					
反発硬度					
打撃方向 (補正值)	()	()	()	()	()
乾燥状態 (補正值)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乾燥 ・ 湿っている ・ 濡れている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乾燥 ・ 湿っている ・ 濡れている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乾燥 ・ 湿っている ・ 濡れている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乾燥 ・ 湿っている ・ 濡れている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乾燥 ・ 湿っている ・ 濡れている
	()	()	()	()	()
材 齢	日	日	日	日	日
	()	()	()	()	()
<p>推定強度結果の最大値 _____ N/mm²</p> <p>推定強度結果の最小値 _____ N/mm²</p> <p>推定強度結果の最大値と最小値の差 _____ N/mm²</p>					

テストハンマーによる強度推定調査票（5）

構造物名（工種・種別・細別等構造物が判断出来る名称）

強度推定箇所

添付しない場合は
（別添資料一〇参照）と記入し、
資料提出

テストハンマーによる強度推定調査票（6）

－コア採取による圧縮強度試験－

コンクリートの圧縮試験結果

コア採取日	平成 年 月 日
試験実施日	平成 年 月 日
材齢28日圧縮強度試験 1本目の試験結果	
同 2本目の試験結果	
同 3本目の試験結果	
同 3本の平均値	
〔備考〕	